岩崎美隆旧蔵本「堤中納言物語」について

土岐武治

はしがき

堤中納言物語の原型は如何なる体裁であつたかに就いては、従来区々たる諸説が対立してゐる。かうした問題の惹起する最も大きなる理由は、堤中納言の現存諸本は何れも江戸時代のものばかりであつて、原本から幾転写を経た末葉の写本のみであれば、それがため長い年月に亘る書写による伝承の中に、その原型は次第に書写人の恣意による改竄、改作、補入、誤写又は虫喰其の他の損傷による訂正、或は装幀様式、行数、字配などの改作なども行はれた為めであらうと考へられる。

このやうな現状に置かれてある堤中納言物語の諸本を積み立てて、原本の再建を考証立てる過程の仕事としては、先づ従来の主観的、独断的に傾いたその判断を避けて、広く証左資料の蒐集に努め、博覧渉臘して諸写本を比較検討し、その同類関係、個別的綜合的な異文の分類を組織立てて、本文批判を施し、その中から原文の正当性、純粋性を鑑識することが最も緊要なことであらねばならぬ。この意味に於て、未だ学界に未発表のままになつてゐる岩崎美隆旧蔵本を紹介し、且つこの写本についての小考を述べて、上述の研究の一助に供したいと考へるが、何等かの参考とならば幸甚である。

一

本書は、河内国花園村の豪家に生れ、村田春門の門人であつた岩崎美隆（日本文学古註大成枕草紙春曙抄北府季吟標註岩崎美隆房註）の旧蔵された堤中納言物語の一冊の写本で、現在は筆者の所蔵となつてゐる。

この本は美濃紙の袋綴ぢで、縦二六・五糎、横一八糎の大きさであつて、白地の題簽は表紙の左側に添付され、それに「堤中納言物語　完」と記されてある。墨付六一枚、

片面十行本で、一行の字数は二十七字内外となつてをり、本文中には句読点や他本に拠る校合はなく、虫喰の跡が諸所に見え、それがため本文不明の個所も随所にある。紙の第一枚目は礼紙で、第二枚目の表の冒頭に、「堤中納言物語」と行書体で記され、この題名の次に行を改め、二字分下げて十帖の章名が「花ざくらおる少将」「このついで」「むしめづる君姫」「ほど〳〵のけさう」「逢坂こえぬ権中納言」「かいあはせ」「おもはぬ方にとまりする少将」「はなだの女御」「はいずみ」「よしなしごと」との順序で各章毎に並べられてあるが、この配列順序は、堤中納言物語に於ける十篇の章題配列「契沖校本」「前田家元禄本」「流布本」「天理図書館蔵岡本麓校本」の四種のうち、流布本に属することになる。

十篇の各物語は紙を改めて書かれ、しかもそれら各篇の題名は、本文より六字分さげて、その物語の最初に一行に書下されてゐる。但し、十篇の物語最後の「よしなしごと」篇末文「冬どもる空のけしき……」の二百二十九字は「よしなしごと」の行文に続いて記されてある。

本書には奥書は見えぬが、書写年代は江戸中期頃の写本と推定される。本文中に見える漢語、地名、人名などは多く仮名体で書き表はされ、仮名は歴史的仮名遣と表音的仮名遣とが混入し、不審と思はれる本文の箇所には「歟」を該本文の右に註記し、和歌の本文だけは行を改めて普通のそれより二字分下げて書下してある。但し「むしめづる姫君」「逢坂こえぬ権中納言」「思はぬ方にとまりする少将」及び「はなだの女御」の四篇に見える和歌だけは一首の和歌が二行の形式になつてゐる。本文は諸本に比較し、誤脱が多いやうに思はれるが、此の点については後段に詳述することにする。

二

本書は堤中納言物語の現存諸写本中、左の写本と頗る相近似した本文を有する。

㈠日本大学図書館蔵本堤中納言物語　㈡池田元侯爵家所蔵土肥経平旧蔵本堤中納言物語、㈢東京教育大学図書館所蔵横山由清校本堤中納言物語　㈣静嘉堂文庫所蔵横山由清本堤中納言物語　㈤桃園文庫所蔵池田亀鑑博士本堤中納言物語　㈥静嘉堂文庫所蔵直麿本堤中納言物語　㈦実践女子大学所蔵黒川真頼旧蔵本堤中納言物語

以上の諸本と岩崎美隆旧蔵本を含めた八写本は、本文上同一グループをなし、比較的特殊なる本文を有する写本群であるが、いま諸本には見えぬ此等八種類の写本の特徴ある本文を指摘し、それからを各篇ごとに挙示すると次のやうになる。

一、はくなざら折る少将

○このさくらおほくあれたるやとわらはいかてかみしわれにきかせよ(一)

〔考異〕(一)わら―りは九条家本、かせは尚古文庫本、□(一字不見」註)他本。

二、このついで

○かたはらひやうふはかりをものはかなげにたてたるつぼね(一)

〔考異〕かたはら―かたはらにたゞ契沖本三手文庫本、慈延本、前田家天本、前田家元禄本、天理大学本(小)。かたわらに他本。

三、むしめづる姫君

○いとをかしきなるにくちなはのかたをいみしくにせて(一)

〔考異〕(一)をかしきなるに―をかしげなるを南葵文庫本　お□けなるに山田常典本。

○いとけうあることかなこもちての給へはとりわかつへくも待らす(一)

〔考異〕(一)もちて―こちもてうと天理大学本(大)、書陵部本(十冊)、前田家天本、九条家本、京都大学本、富士谷本、岩瀬文庫本、島原本、こちもてこと他本。

四、ほど〳〵のけさう

。うせにし式部卿の宮のひめきみの中になんさふらひける宮など(一)

〔考異〕(一)うせにし―うせ給るにし伴信友本、山田常典本、大野広城本、内閣文庫本、うせにし他本。

五、あふさかこえぬ権中納言

。たはふれにはあらさりけることにはとの給はされは心によるかたのあるにや(一)(二)

〔考異〕(一)ことには―ことにこそは南葵文庫本、ことにこそは他本

(二)の給はされ―の給なれ黒川本、の給はすれ他本。

。しはしまもりきこゆるにおはせすなりぬれは中〳〵かひなきことは(一)

〔考異〕(一)まもり―まい広島師範学校本、まち他本、

六、かひあはせ

七、おもはぬ方にとまりする少将

。いとおかしき御ふるまひあなかちせしきこへ給へは(一)

〔考異〕(一)御ふるまひ―御ふるまひも諸本、御ふるまひを契沖本、元禄本

。いまはすこしわかくおはするにやなにとも思いたりもな

くて

〔考異〕(一)いまは—いま諸本

八、はなだの女御

○まろかきくの御かたこそともかくも人にいはれ給はぬ(一)

〔考異〕(一)給はぬ—給はねは伴信友本、山田常典本、大野広城本、内閣文庫本、給はね他本、

○いかにとてまいりなむこひしくこそおはします(一)

〔考異〕(一)ます—他本

九、はいずみ

○おやにもしらせてかやうにさかりそめてしかはいとをしさに(一)

〔考異〕(一)さかり—まかり他本

一〇、よしなしごと

○せめてはうらしまのこかはこにまれそてのかはふくろにまれ(一)

〔考異〕(一)うらしまのこかはにまれ—うらしまのとかかはこにきれ山田常典本、伴信友本、大野広城本、内閣文庫本、うらしまのこかかはこにもまれ島柳原本、原本(十冊)、浦島の子かにまれ旧三高本、こらしまのこかかはこにまれ浜臣本、頼閑本、うらしまのこかはこにまれ他本、

とのやうな此等八写本相互の共通異文、脱字、又は誤写と思はれる諸点などの全く符合するといふ伝本系統を支配する内部的条件に拠つて、叙上の写本群が同一系統のものであることを認容せざるを得まい。更にこれ等の諸本を考証づける外部的条件を列挙するならば、元来堤中納言物語の諸伝本に見える題名に「堤中納言物語」「堤中納言」「つつみ物語」の三種類の名称が見えるが、これら八種類の写本は、いづれも「堤中納言物語」となつてをり、しかも前述した如く、物語十篇の配列順序も、共に流布本に属するのである。又「花ざくら折る少将」の章名は、現存諸写本には「花ざくら折る少将」「花さくらをおる少将」「花桜折る大将」「花サクラ」の四種類に分類されるが、右の写本群は「花ざくらをおる少将」となつてゐることである。

右の広義的同一の諸写本のうち、岩崎美隆旧蔵本の本文は、特に日本大学図書館所蔵本、東京教育大学図書館所蔵本、静嘉堂文庫所蔵本、桃園文庫所蔵本、静嘉堂文庫所蔵直麿本、実践女子大学所蔵本のそれに一層近い血族関係を有してゐるごとく考察されるが、この点についての委細なる論述は他の機会に発表することにする。今試みに、現存諸写本中他本に見えぬ此等七写本の特徴異文を左に掲げて

見る。

一、花ざくらおる少将

○このありつるものの返(一)りよひて

〔考異〕(一)返りよひて—通ひて函碕本、通よひて尙古文庫本、返たかひて九条家本、をよひて刈谷本(二冊)、李花亭本、返よひて他本。

○ひわをわうしきにしらへていとのとやかにををしくひき給ふ

〔考異〕(一)わうしき—わうしきてう諸本

○みかとわたりにこそめてたくひく人(一)のあれ

〔考異〕(一)のあれ—ある函碕文庫本、あり浜臣本、南葵文庫本、貞融本、井上頼閲本榊原本(一冊)、嘉永本、岸本由豆流本、多和文庫本、大野広城本、伴信友本、山田常典本、東北大学本、あれ他本、

○あれたるやとわらはいかてかみしわれにきかせよ

〔考異〕(一)わら—りは九条家本、かせ尙古文庫本、は嘉永本、□他本

二、このついで

○きちやうそへていみしくをかしけなりし人

〔考異〕きちやうにそへてきよけなるほうし二三人はかりすへていみしくをかしけなりし他本

三、むしめづる姫君

○(一)もやすたれをすこしまきあけてきてういてたてて

〔考異〕(一)もや—もやの他本

○うらやましはなやてふやといふめれとこ(一)はむしくさき世をもみるかな

〔考異〕(一)こはむし—かはむし他本

○このむしとらふるわらはへにはをかしきものかれかほしかるもの

〔考異〕(一)むし—むしとも他本

中将といひあはせあやしき女ともの……

〔考異〕(一)いひあはせ—いひあはせて他本

○わらはへともみなよひいれて心うしといひあへり

〔考異〕(一)とも—をも他本

四、ほと〳〵のけさう

○ことねりすいしんなとはことにおもひとかめもことわりなり

〔考異〕(一)おもひとかめ—おもひとかむ、函碕本、浜臣本、伴信友本、嘉永本、山田常典本、東北大学本、南葵文庫本、多和文庫本、藤井博士本(一冊)、神宮本、頼閲本、貞融本、榊原家本、河島家本、岸本由豆流本。おもひとかめる他本。

○たた(一)中将のししうのきみなといふなん

〔考異〕(一)中将の—中将他本
○はかなの御けさうかなといひてもてい(一)よ〳〵とらすれば
〔考異〕(一)いよ〳〵—いきて他本

五、あふさかこえぬごん中納言
○心をさなくとり(一)よせ給しか心くるしきにわか〳〵しき心ちすれと
〔考異〕(一)とりよせ給しか心くるしき—とりよせ給しか心くるしさに天理図書館本(小)、島原本、伴信友本、旧広島師範本、多和文庫本、藤井博士本(二冊)、李花亭本、嘉永本、山田常典本、冨士谷本、東北大学本、旧三高本、刈谷本(二冊、一冊)、南葵文庫本内閣本。とりよせ給しは心くるしさに函碕本、宮内庁書陵部本、前田家天和本、とりよせ給しか心くるしま(一)に天理図書館本(小)。
○たたひとこそをといひもやられすなみたのこほるる
〔考異〕(一)やられす—やらす他本
御けしきをわれならはやとおもらん
〔考異〕(一)やと—ナシ大野広城本。内閣文庫本

六、かひあはせ
○しはしうちより人やとす(一)すろときめきし給へと
〔考異〕(一)すゝろ—こゝち河嶋家本、こゝち他本、
○今日のありさまのぞかせ給へよさらはまた〳〵も
〔考異〕(一)のそかせ—をみせ京都大学本、東北大学本、のみせ他本

七、おもはぬかたにとまりする少将
○中(一)のきみををこしたてまつりてわか御かたへわたしきこへなとするに
〔考異〕(一)中のきみを—中のきみ他本

八、はなだの女御
○六(一)の君はかきほのなでしこはそつ殿ときこへまし七(二)君かるかやのなまめかしきさまにこそこき殿はをはしませ
〔考異〕(一)六の君は—六の君他本　(二)七君かるかやの—かるかや元祿本、函碕本
○われもかうにおとらし色(一)にそをはしますなといひおはさうすれは
〔考異〕(一)色にそしかせに冨士谷本、かほにそ函碕本、浜臣本、神宮本、嘉永本、山田常典本、伴信友本、旧三校本、刈谷本(二冊)多和本、南葵本、藤井博士本(一冊二冊)、大野広城本、内閣本、頼閑本、貞融本、柳原家本(一冊)、河嶋家本、岸本由豆流本、かせにそ他本
○さむはれのきみのやますけにきこへん
〔考異〕(一)のきみ—のきは他本

九、はいずみ

あからさまにとていまの人のもとに(一)ひるまいりくるをみて

〔考異〕(一)ひるま—ひるまに他本

以上は他本に見えぬそれら七種類の、グループ的異文を列挙したものである。その他堤中納言物語の諸伝本にも見えるが、此等の共通異文を示す個処を数字で示すと、花さくらをる少将七、このついで七、むしめづる姫君八、ほど〳〵のけさう七、あふさかこえぬ権中納言八、かひあはせ六、おもはぬかたにとまりする少将八、はなだの女御一〇、はいずみ九、よしなしごと四となつてゐる。更に三手文庫蔵堤中納言物語本を底本となし、それと前記の八種類の写本とを比較校合して、その本文上の異数を統計的に表示すると左の通りになる。（六二頁ノ図表参照）

このやうな関係に置かれてある岩崎美隆本は、此等七種類の同類写本とは如何なる直接の転写関係を有してゐるかを克明に判定することは、現在の資料のみにて、それが系譜上の地位を決定することは不可能なことで、従つてその点については今後の研究を俟たざるを得ないが、これ等の写本群と共通祖先をなし、密接不離な依存関係をもつて、同族写本群を構成してゐることは、前述の諸理由によつて

四

確証しえたと考へる。

次に本文上、右の写本群と同一系統をなす岩崎美隆旧蔵本の孤立的特徴本文をとりあげてみることにする。

(一)はなざくらをる少将

○(一)人をなき所なれはここかしこのそけととかむる人なしこのありつる

〔考異〕(一)人を—人そ伴信友本、山田常典本、内閣本、大野広城本人け他本

○あまなとにやなりたるらんとかの光遠(一)にあはしやなとほゝゑみての給ほとに（直、池、美）

〔考異〕(一)光遠—みつとを

○おとなしき人の(一)季光なとかいましてをきぬそ（直、池、美）

〔考異〕(一)季光—すゑみつ

○御あそひありてめしからもみつけたてまつらんこそとの給へは

〔考異〕(一)めし—めしゝ他本

○みつすゑかくるまにておはしぬはなのけしきみありきていれたてまつりつ

〔考異〕(一)はなの—はなは前田家天和本はな伴信友本、はな〳〵

諸本名 ＼ 篇名 ／ 異文数 校合数	はなざくらをる将少	このついで	むしめづる姫君	ほと〴〵の懸想	あふさかこえぬ権中納言	かひあはせ	思はぬかたにとまりする少将	はなだの女御	はいずみ	よしなしごと	合計
日本大学本 異文数	20	22	29	17	34	29	59	45	37	36	328
日本大学本 校合数	183	167	299	126	245	216	279	262	299	197	2258
池田侯爵本 異文数	15	16	20	12	16	14	24	31	20	9	177
池田侯爵本 校合数	138	167	299	126	245	216	279	162	279	197	2258
東京教育大学本 異文数	30	45	64	33	56	49	83	75	55	26	516
東京教育大学本 校合数	183	167	299	126	245	216	279	262	279	197	2258
直麿本 異文数	30	32	44	22	28	28	37	49	43	34	350
直麿本 校合数	183	167	299	126	245	216	189	262	279	197	2258
黒川家本 異文数	28	37	46	29	40	37	60	48	42	40	427
黒川家本 校合数	183	167	299	126	245	216	279	262	279	197	2258
美隆本 異本数	32	27	37	20	40	34	40	56	38	41	365
美隆本 校合数	183	167	299	126	245	216	279	262	279	197	2258
池田博士本 異文数	24	26	44	24	29	26	44	53	38	37	345
池田博士本 校合数	183	167	299	126	245	216	279	216	279	197	2258
由清本 異文数	39	44	68	37	54	50	72	73	49	30	516
由清本 校合数	183	167	299	126	245	216	279	262	279	197	2258

函碕本本、はなゝ山田常典本、多和文庫本、浜臣本、大野広城本
内閣文庫本、はる〳〵東北大学本、南葵文庫本、貞融本、わらは
旧三高本、刈谷本(二冊)　藤井博士本、李花亭本、榊原本(一冊)

このついで

○御ちやうのそひのをましにかたはらふさせ給えり(一)

〔考異〕(一)そひ—そいの吉田幸一本、榊原本(十冊)　彰考館本、
由清本、直暦本、池田亀鑑博士本、黒川家本、うしろ日本大学本
そはの他本

○ゆふつかたかせいとあらゝかにふけてこのはほろ〳〵と(一)
たきのかたさまにくつれ

〔考異〕(一)ふけて—ふきて他本

○わかき人〳〵二三人はかりうすいろひきかけつゝいたる(一)
も

〔考異〕(一)うすいろ—うすいろもの他本

○かはむしてふとはなるなり(一)
むしめづる姫君

〔考異〕(一)かはむし—かはむしの他本

○なといひてわらへはからしやまゆはしものゝむしたちた(一)
めり

〔考異〕(一)のゝむし—かくむし島原本、岡山元池田侯爵家本、に
とむし黒川本し他本

○あなゆゝしともゆゝしもといふにいとゝにくまさりて(一)

〔考異〕(一)もゆゝしも—もゆゝしと他本　ナシ直暦本

○かたつふりのあい(一)あいあらそうやなそといふことをうちすん
し給

〔考異〕(一)あい—あいなう直暦本　ないのう由清本　日大本　池
田亀鑑博士本、あいのり伴信友本　山田常典本　大野広城本、内
閣文庫本　あつのゝ刈谷文庫本(二冊)　つのゝ函碕本、嘉永本、
東北大学本　旧三高本　あいのゝ他本

○なに心なく御まへにもてまいりてふくろに(一)なとあくるた
にあやしく

〔考異〕(一)にな と—なとに吉田幸一本　なと他本

○ちきりあらはよきこくらくにゆきあはんまつえにくしむ(一)
しのすかたは

〔考異〕(一)まえにくし—まつをにくし黒川本　池田亀鑑博士本、
まろをにくし直暦本　まつ我にくし他本

○いかてみてしかとみて中将といひあはせ(一)

〔考異〕(一)とみて—と思て他本

あふさかこえぬ権中納言

○五月まてつけたるはなたちはなのかもむかしの人こひし(一)
う秋のゆふへにをこぬかせに(二)

〔考異〕(一)まてつけ—まちつけ他本(二)をこらぬ—おとらぬ他本

○をりからしのひかたしてれいの宮わたりに(一)

〔考異〕(一)かたし—ナシ元禄本　かたう藤井博士本　かたく他本

○あるわたりのなをさきけ(一)あまりなるまてとおほせと
〔考異〕(一)ささけ—なさを旧広島師範本　なさけ他本
○いみしうふさはぬさゝけしきのさふらふはたのめさせ給(一)へるかたの
〔考異〕(一)さゝけしき—御けしき他本
○みなわすれにて侍るものをといふ(一)とのかるへうもあらす(二)の給へははんしきてうにかはしらへてはやりかたにかきならしたる
〔考異〕(一)いふと—いへは伴信友本　山田常典本、大野広城本、内閣文庫本、(二)かはしらへ—あいしらへ藤井博士本　かいしらへ他本
○はんしきてふにかはしらへてはやりかにかきならしたる(一)を
〔考異〕(一)かはしらへ—あいしらへ藤井博士本、かいしらへ他本
○みなわすれにて侍るものをといふ(一)とのかるへうもあらすの給へは
〔考異〕(一)いと—いへば伴信友本、山田常典本　大野広城本　内閣文庫本　いへと他本
○なかきをためしはもとてもたせ給へり中納言まかりて給とてはしのもとのさうひもとうちすんし給へるを
（傍線ノ箇所缺ク）

○わかき人〳〵はあかすしたひぬへくめてたきこゆかのわ(一)たりにもおほつかなきほとになりにけるを(二)
〔考異〕(一)めてた—めて他本(二)わたり—みやわたりにも神宮本日大本　内閣本　伴信友本　嘉永本　貞融本　頼図本　榊原本（一冊）刈谷本（一冊）刈谷本（二冊）　山田常典本　旧三高本　多和文庫本　南葵本　李花亭本　藤井博士本　函碕本　浜臣本　天理本　とやわたりにも他本
○はつかしけなる御ありさまにいかてかきこえさせ(一)せんといへとさりとてものゝほとしらぬやうにやとて
〔考異〕(一)いかてか—いかて他本
○御ためいとをしくていまよりおほしらすかほならは心うくなん
〔考異〕(一)いまより—いまよりのちに旧三高本　いまよりのちに他本
かひあはせ
○さもあらねはくちをしくあゆみすきたれは(一)
〔考異〕(一)くちをしく—くちをしう前田家天和本、くちをしくて他本
○やをらはいりいみしくしけきすゝきの中にたてるに
〔考異〕(一)はいり—はいそて吉田幸一本、はひりて浜臣本　伴信友本　嘉永本　藤井博士本　山田常典本　大野広城本　貞融本

頼図本　榊原本　はいいりて他本

○月ころいみしくあつめさせ給にあなたの御かたはたいふのきみしししうのきみとかひあわせさせ給はんとていみしくもとめさせ給なり（傍線ノ箇所ナシ）

○まかりなんといへはそのひめきみたちのうちとけたまひたらん(一)とてまゝかうしのはさまちとにてみせ給へといへは

〔考異〕(一)たらんとてまゝ—たゝん日大本　たらん他本

○思ひよらぬくさなくこそ(二)ふきやう殿の御かなとにまいりて

〔考異〕(一)くさなく—くまなくみ冨士谷本　くまなく他本(二)ふきやう殿—くきやう殿田清本　そきやう殿他本。

○御まへにきこえむといひてかうれしのわさや行くやつれてはしりいりぬ

〔考異〕(一)かうれしのわさや行くや—さいひかてらおそろしくや他本

○このくみいれのうへよりふとものおちたらは(一)

〔考異〕(一)もの—ものゝ他本

○まきれいそえならぬすはまの三まはかりなるをうつほにつくりて

〔考異〕(一)いそ—いてゝた他本

おもはぬかたにとまりする少将

○御めのとたつ人もなしたゝつねにはしし(一)う弁なといふわかき人〳〵のみ候へは

〔考異〕(一)には—に候他本　侍　直厳本

○れいの人(一)まゝなる御心にてうすいろのなよゝかなるかいといみしう

〔考異〕(一)人—人の他本

○思ひあへたらん事めてさま(一)〳〵きこへ給事もあるへし

〔考異〕(一)めて—めゝて池田亀鑑博士本　めきて他本

○思ひたりもなくて人〳〵御なときかせかへたてまつりつれは

〔考異〕(一)御なと—御そな神宮文庫本　藤井博士本　御そなと他本

○九の君といへは十の君し(一)けいはあさかほの昨日のはなと

〔考異〕(一)しけい—しけいさ他本

○みなとられたてまつりぬれはさはれ(一)のきみのやますけに

〔考異〕(一)のきみ—のきは他本

○いかにそやきゝ給つやとこそ(一)〳〵きゝしりてうちわらふあり

〔考異〕(一)とこそ〳〵—ところ〳〵他本

○思ひたらぬところなけれはこの(一)人ともしらぬにしもあら

す

〔考異〕(一)人とも—人ともゝ他本

○かのをみなへしの御かたといひし人はこゑはかりをきゝし心さしふかく思し人なりなてしこの御ひとゝいひし人はむつましくもありしを（傍線ノ箇所ヲ缺ク）

○あさかほの御(一)人はわかうにほひやかにあいきやうつきてつねにあそひかたきにてはあれと

〔考異〕(一)御人—人は他本

○あさかほの御人わかうにほひやかにあいきやうつきてつねにあそひかたきにてはあれとなこりなくこそきゝうやはつねにうとむれ（傍線ノ箇所缺リ）

○いたらぬさとへなとはいともてはなれていふ人をはいとをかしくいひかたらひ（傍線ノ箇所ナシ）

はいずみ

○いまなんくやしけれはいまもえかきたゆますなんかしこにつちをかすへきを

〔考異〕(一)かきたゆす—かきたゆまし他本

かくいふはもとにかふ人なるへし

〔考異〕(一)にかふ—つかふ他本

○こゝもとおほせられて人もさせ給はてかくとをくはいかにといふ

〔考異〕(一)させ—くせさせ他本

○あけぬさきにとてこのわらはとにていとゝくいきつきぬ

〔考異〕(一)わらはと—わらはとも他本

○この女ははにしよりさらになきふしたるほとにて

〔考異〕(一)はに—きつゝ嘉永本、いきつき由清本、きつき他本。(二)さらに—さらは他本

○なみたかはそこともしらすつゝきせをゆき返つゝなかれきにけり

〔考異〕(一)しらすつゝきせ—しらぬつらきせ嘉永本、直躬本、冨士谷本、島原本、多和文庫本、櫛原本、南葵本、東北大学本、貞融本、頼囧本、しらぬつらき世函碕本、しらすつらき身旧三高本、しらすつらきせ他本

よしなしこと

○ふしのたけとあさまのみねとのはさまならすはかまとやまとのみさきとのたまえにまれさらすはしらやまとたちやまとのいきあひのたにゝまれ（傍線ノ箇所缺ク）

七てうのなはむしろにまれ侍らんをかさせ給へまたきなくはやれむしろにてもがさせ給へひやうふもよう侍（傍線の箇所ヲ欠ク）

○しらたのたまをくきにうちたるにまれ

〔考異〕(一)しらた—しら　他本

上記の如く、右の本文をその該当の善本と比較検討すれは「そ」を「を」と、「ゝ」を「し」と、「く」を「ゝ」と、「御」を「さ(佐の草体)」と、「な」を「さ」と、「ろ」を「そ」と、「は」を「み」となどの紛れ易い仮名による誤謬、又「人ともゝ」を「人とも」と、「人の」を「人」と、「めてゝ」を「めて」と、「くちをしくて」を「くちをし」となどの如く助詞を脱落してゐる。その他脱文なども諸所に見える。例へば「いたらぬさとへなとはいともてはなれていふ人をはいとをかしくいひかたらひ(はなだの女御)」の本文の傍線の箇所を缺いてゐるが、これは本文初めの「いと」まで書写した際に、視線は錯覚を起して下の「いと」へ目が誤り、遂に傍線の部分だけを見落したのであらうが、美隆本は、右の如き原因による脱文の数は、他本に比較して割合に多く見受けられる。従つて本文上不純不正な難点のあることは見逃せぬ事実である。しかしながら不純なる本文形態を精査することによって、誤謬、混成などの直前に於ける本文過程の実体を確認し、また孤立的本文は、多くの場合写本相互の依存関係、写本の伝承本文批判等の重要なる参考資料に値するものであることに照らし、叙上の七写本と同族関係にある岩崎美隆旧蔵本は、堤中納言物語の本文研究上、注目すべき伝本の一つである。

受贈雑誌

日本文学　日本文学協会　八・九・十・十一月号
文学研究　法政大学日本文学研究会　6
文芸研究　東北大学日本文芸研究会　第十八集
成城文芸　成城大学文芸学部　第一号
語文　大阪大学国文学研究室　第十二輯
上代文学　上代文学会　第四号
万葉　万葉学会　第十三号
国語　東京教育大学国語国文学会　第三巻第二号
文芸研究　明治大学文芸研究会　第一号
清泉女子紀要　清泉女子大学　1
明治学院論叢　明治学院文学文経学会　第三十四・三十五号
日本大学文学部　研究年報　第四輯　日本大学文学部
蔵書目録附解題　法政大学能学研究所
書陵部紀要　宮内庁書陵部　第三・四号
国語副詞の史的研究(一)なかなか　大阪市立大学文学部国語国文学研究室